

# 葉タバコ



## 育苗

散水時に散布



- 根っ酵1000倍素液 →根を強くし、生長を促進。
  - 花咲くCa液1000倍 →葉を厚くし、充実させる。
- ※発芽後15日頃（親床から子床へ植えかえ時）以降、5日間隔で交互に、葉の上から散布。  
定植（移植）10日前から2回、Ca液を散布して 苗をしめます。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
残幹処理	残幹による地力作り	収穫後の残幹は、なるべく粉碎して畑にスキ込む。この時 ●ラクトバチルス600gを米ヌカ30kgに混ぜて、（または硫安10kgに混ぜて）撒いてから耕す。 ※持ち出して堆肥を作る場合にも、ラクトバチルスを加えて醗酵させる。
地力作り	秋のうちに堆肥を入れて、耕起 （上記、残幹処理と同時か、近接するのが理想的）	●ラクトバチルス600g →有機物を醗酵させ、排水よく、深い土壌を作る。 ●堆厩肥1トン以上（なるべく多く） ●硫安20～60kg ※堆厩肥の土中醗酵だけを目的とする場合は、硫安20kg程度。 肥料的な働きを含めて地力作りをするなら、硫安60kg。 （畑の地力・前年の出来によってチッソ量を調節する） ※土壌pHが酸性（5.5以下）の場合、畑の大将〈青〉60kgを同時投入。 ※堆厩肥が不充分、または痩せ地の場合は、NPK成分の複合肥料、または硫酸カリ40kgなどを投入しておく。
整地時	整地・ウネ作り時に散布（元肥） ※3種・同時に	●硫安40kgまたは有機肥料（N:10kg） ※もし秋の地力作りで投入されていない場合、ラクトバチルス600gを混合する。 ※堆厩肥による地力作りが充分なら、硫安を推奨。 ●畑の大将〈青〉60kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将〈赤〉を施す。 ●マンゾク粒状50kg →生長促進、土壤病害対策。 ※ウネ上に散布または植付け位置近くにスジ撒き。
定植時	定植（移植）時灌水	●根っ酵素500倍液 →初期の根張り促進、病害軽減
生育中	葉面散布できれば灌水 ※生育状態を見て、適宜コントロールする	●根っ酵素500倍液を葉面散布 →根・生長の促進。 ※移植後1ヶ月間は、根張り健全な展葉・生長のために、酵素液を、半月間隔で2回散布すると、立枯れ・疫病にも強くなる。 ※土寄せする場合はその時に酵素液を葉面散布。（または灌水） ●アミノ酸液500倍を葉面散布（Nなどの成分補給） ※移植後1ヶ月～2ヶ月に、葉が展開するためにチッソ等の成分が必要になります。通常は元肥で充分だが、もし肥切れのおそれがある場合（葉中N=3.5%以下）は、葉面散布する。 ●花咲くCa液500倍を葉面散布 →葉の成熟（10日間隔2回） ※移植後2ヶ月、花房を芯止め（摘心）し、MH（腋芽抑制剤）散布したら、Ca液の葉面散布でチッソ抑制、葉の厚みを増し、成熟を促進。上葉・天葉まで色抜けよく、若返りしない。